



町民文芸

只見短歌会

二月詠草

大塚栄一

指導

関谷登美子

放射能の嘆きをまとめし新聞の家族の記事に涙誘はる

小倉キミ子

音のする杉に触ればびしびしと手に伝はりて雪折れ近きか

古川 英子

間をおかず坐骨神経痛みきて耐ふる顔つき変りをらむか

渡部ゆき子

雪祭りに成人迎へし孫達を祝ふ花火の打上げ見あぐ

五十嵐夏美

手遅れの病に長男亡くしたる友に声なく肩さすりやる

目黒 富子

神棚に供へし松を焚く煙身に当てたきと両手であふぐ

馬場 八智

齢よりは少し派手目に装ひて心病む孫の通院に添ふ

渡部ヨリ子

雪解けの庭の木槿むくげの枝に来て瘦せし一羽の雀とまりぬ

新国 洋子

夫とわが介護に疲れ椅子に掛けうつぶせに眠る娘起こさず

(出 詠 順)

只見俳句会

三月例会

目黒十一

指導

信

耳に湧く子らの歓声団子挿す

藤 彦

降り続く屋根の雪嵩春遠し

薬岳啼く吹雪の夜や独り酒

一 灯

春吹雪山吹きおろし吹きあげて

雛壇を飽きたと五人離子言い

恒 夫

お隣の子犬尾を振る春隣

邦 男

奥会津無声映画のように雪

雪の壁わが家へ向かうのぼり坂

初午や伏見稻荷を遠くより

立春の朝や雪降る野も山も

又 壺 歩

春雪や束ね薬草朝風呂に

戸を開けて眼鏡のくもる凍てる朝

邦 夫

春寒を苦にせず生きて山に老い

吉 児

晩年は楽しく行こう風光る

リウコ

寝静まる山里を行く除雪音

川底を重機掘り行く春の風

笑 羊

独房めく公衆トイレや黄水仙

カーテンの裾へ不眠の春の蠅

くつきりと陽のかたむきに雪の峰

春の雪一夜につもる深さかな

美男子は雪の鎌倉大佛様

吊るされて凍大根のフラダンス

一 穂

災害へ重機行き交う春の雪

神楽獅子頭かみつく雪まつり

おのが影落とし林の木の根明く

雪中菜取り出し抱けば息をして

雪焼けの笑顔コップに酒満たす

豆腐とは思ひぬ珍味春炬燵

礼

洋 子

都

康 女

都